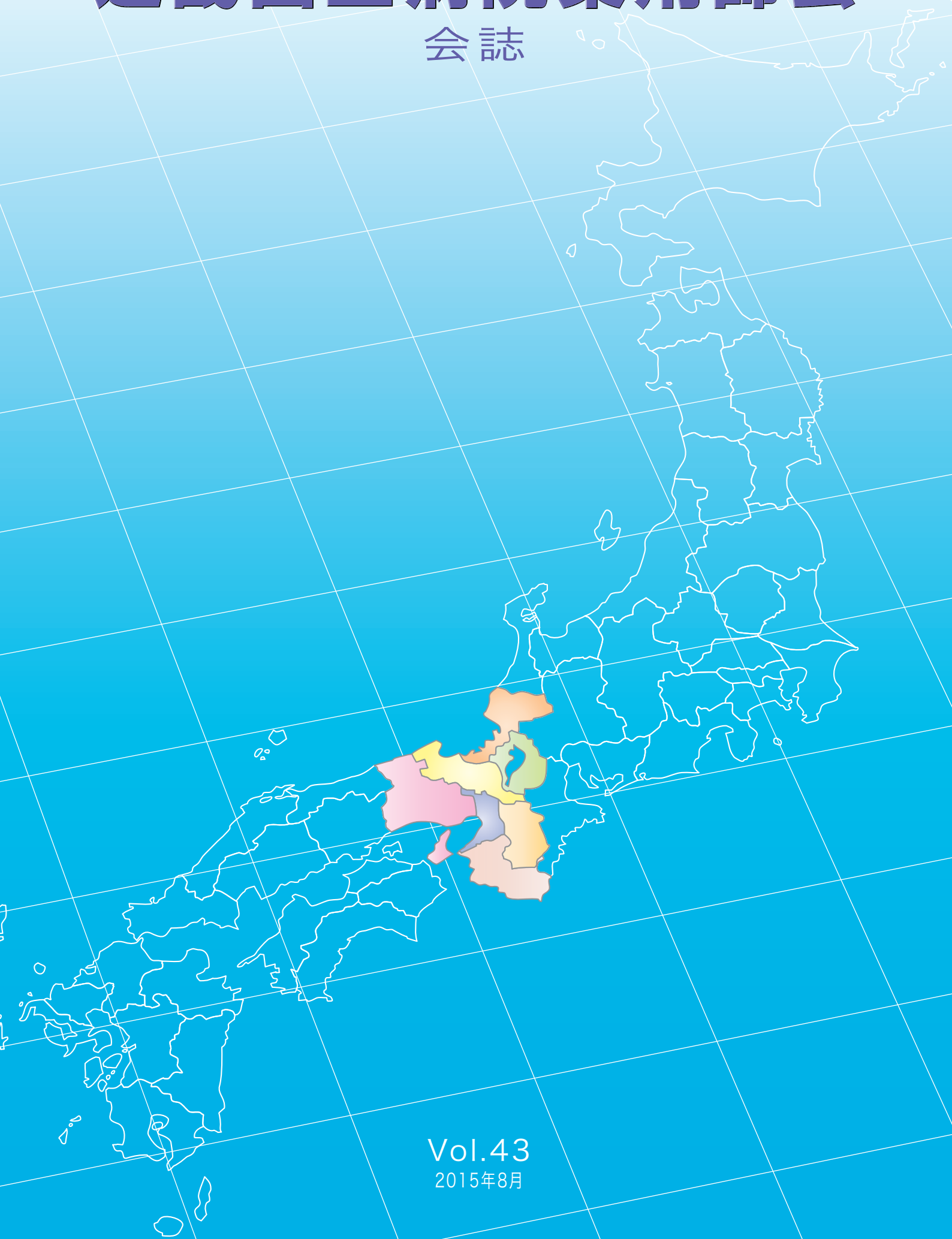


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.43
2015年8月

目 次

提言～凜として～.....	2
奈良医療センター 関本 裕美	
薬剤部紹介.....	3
近畿中央胸部疾患センター 古川 順章	
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会業務検討委員会主催講演会報告.....	5
大阪医療センター 中内 崇夫	
平成 27 年度 近畿国立病院薬剤師会 教育研修委員会主催中堅薬剤師研修会報告.....	6
国立循環器病研究センター 早川 直樹	
平成 27 年度 近畿国立病院薬剤師会 教育研修委員会主催中堅薬剤師研修会報告 ～「後輩薬剤師を育成しよう」に参加して～.....	8
舞鶴医療センター 田中 将晴	
「第 7 回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会」に参加して.....	9
南和歌山医療センター 渡辺 雄太	
初めての転勤を経験して.....	10
敦賀医療センター 藤田 晃介	
「薬剤師の集い」に参加して.....	11
舞鶴医療センター 東 達也	
新採用者紹介.....	13
趣味のページ ～自由に感じる時間～.....	21
京都医療センター 竹之下 祥愛	
編集後記.....	22

提言 ～凛として・・・～

奈良医療センター 関本 裕美

アベノミクスの3本目の矢である「成長戦略」の中核に位置づけられた「女性活躍」。その政策の具体案の是非はともかくとして、日本社会にとって必要不可欠なテーマであることは間違いないでしょう。斯く言う私も近畿グループでは20年ぶりの女性薬剤部長とのこと・・・果たして元来呑気で気楽な私に務まるものでしょうか？

女性管理職の登用は、企業に多くのメリットをもたらすと言われていています。マネジメント層への多様性の導入、女性社員のロールモデルとしてモチベーションの向上、チーム力を重視した適度な強さのチームワークを保ちつつ、部署内に良好な人間関係を構築するetc・・・男性管理職がチームワークを意識すると、ともすると「体育会型」の濃密すぎる人間関係となりがちですが、女性管理職の場合は緩やかにまとまることのできるそうです。なるほど、これなら私でも何とかなるかも知れないと思い直し、緩やかにまとまった「チーム奈良」を現在構築中です。

さて、私が国立病院に勤務したのは平成8年6月、国立篠山病院の非常勤が始まりでした。その頃はまだ次女が生まれたばかりで、家庭では2人の娘と1人の甥（近くに住む教師である妹の子）の3人の元気な子供たちに振り回される日々を送っていました。結婚、出産のライフステージの変化のために退職して3年ぶりの薬剤師復帰となりました。そして篠山病院の移譲と共に自宅から最も近い兵庫中央病院へと異動、次女が小学校に入学したのを機に平成14年7月に大阪南へ常勤採用となり、循セン、大阪、神戸を経て古都奈良へ通うことになりました。通勤時間2時間15分と通勤可能な施設への異動については諸先生方に感謝申し上げます。結婚、出産、育児、介護による家庭と仕事のバランスの変化は当たり前のことですが、働く女性にとってワークライフバランスをいかに上手く取っていくか、又職場にとって有能な女性薬剤師をいかに継続して有効に活用できるかは大きな課題と思われます。ワークライフバランスが幸運にも上手くいった先輩女性として私が全女性薬剤師に申し上げたいのは「決して無理をせずその時代に一番大切なことを優先させてください」ということ、そして女性薬剤師を部下に持つ全管理職に申し上げたいのは「家庭を重視しなければならない時期を過ぎると、あなたの有能な女性の部下は組織のために十分働いてくれますので少しだけ待ってあげてください」ということです。

現代の女性に必要なのは、仕事も私生活も楽しむ姿勢ではないでしょうか？“仕事か家庭か”の二者択一ではなくどちらも選択して良いのです。薬剤師として、女性として、母として、個人がいくつもの顔や価値観を持つ“マルチプル・アイデンティティー”を目指しませんか？私も私生活を大切に、いつも涼しそうな顔をして公平で冷静な判断のできる、凛とした女性管理職でありたいと思います。そしてその中に緩やかさとまるやかさを持ちながら・・・“凛デレ”



薬 剤 部 紹 介

近畿中央胸部疾患センター

【病院概要】

近畿中央胸部疾患センターは、大阪市に隣接する堺市（人口 83.2 万人）の東部に位置し、金岡団地・泉北団地を有する地域にあります。堺市金岡公園・大阪管区警察学校・堺市立長尾中学校等の公園文教施設に囲まれ、東方には金剛生駒連山を望み、西方約 4km には堺・泉北臨海工業地帯が広がっています。また、南方 1km には世界一と言われる前方後円墳の仁徳天皇陵があります。



当センターは呼吸器疾患の高度専門医療施設として位置付けられています。標榜診療科は 20 診療科、病床数 385 床（一般 325 床、結核 60 床）で、呼吸器疾患分野の診療、臨床研究、教育研修、情報発信の全国的なネットワークに参加しています。また入院患者の約半数が肺がん患者で、2013 年の肺がん手術件数約 500 件、緩和ケア診療加算患者数約 600 人は共に全国 NHO で 1 位です。

【薬剤部概要】

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長、主任 5 名（製剤主任、薬務主任、治験主任、調剤主任、試験検査主任）、薬剤師 10 名、薬剤助手 1 名の 18 名で構成されています。また、日本医療薬学会がん専門薬剤師と薬物療法専門薬剤師の研修施設の認定を受けています。

当センターでは平成 25 年 5 月から結核病棟を含む 7 病棟すべてに専任薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しました。月に 2 回薬剤部内でカンファレンスを開催して、チーム医療（PCT、ICT、NST）専任薬剤師と病棟薬剤師や DI 担当薬剤師との情報交換など、薬剤師間の連携強化を図っています。また病棟薬剤業務において、薬剤の適正使用推進の観点から、薬剤師によるバンコマイシン血中濃度の検査代行オーダーと B 型肝炎ウイルス再活性化対策のための代行検査オーダーを行っています。薬剤師が関与することで必要な検査実施率が大幅に向上し、検査結果を踏まえた処方提案を行うことで副作用未然回避に大きく貢献できており、院内で高い評価を得ています。

外来においては平成 26 年 5 月から薬剤師外来を開設し、がん患者管理指導料 3 の算定を開始しました。採血などの検査後、診察までの待ち時間を有効利用して診察前予診を行っ

ています。面談件数は約 100 件/月で積極的に処方提案（約 25 件/月）や前述の検査代行オーダーも行い、副作用の早期発見や軽減に努めています。

病薬連携にも取り組んでおり、堺市がん病薬連携検討会や堺市医薬連携吸入指導研究会のメンバーとして当院薬剤師が立ち上げから関与し、連携ツールなどを用いた運用を試行的に開始しています。また退院時共同指導にも参加するなど、薬学的管理がシームレスに入院から外来に移行できるよう、保険薬局の薬剤師とのチーム医療の実践を始めています。

治験においては治験請求金額が昨年度は 1 億円を超え（NH0 近畿グループで 2 位）、治験件数は 48 件（平成 27 年 8 月現在）となっています。また多くの治験を受け入れるために、今年 5 月から治験支援業務委託企業（SMO）を導入し、外部 CRC の活用も始めています。

平成 27 年 6 月からは、化学療法のオーダリング化を行いました。従来の紙ベースの運用と比較して、処方入力や確認作業が簡便になり、転記ミスなどの過誤が大幅に減少するなど、業務の効率化や医療安全面で成果が出ています。

来年度は病院建て替え（夏に工事着工）と電子カルテ導入（12 月稼働開始）という大きなイベントが 2 つ予定されています。この大きな波を乗り越えられるように、今後も薬剤部の力を結集して、安全で良質な医療の提供、医療安全対策、医薬品の適正使用推進に努めていきたいと考えております。



（文責：古川 順章）

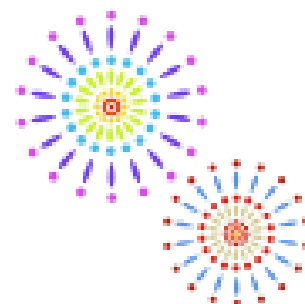
平成27年度近畿国立病院薬剤師会業務検討委員会主催講演会報告

大阪医療センター 中内 崇夫

2015年5月30日(土)に近畿国立病院薬剤師会業務検討委員会担当講演会がKKRホテル大阪にて「病棟薬剤師業務の根幹を考える」をテーマに、会員講演と特別講演の2部構成で開催されました。

会員講演では大阪南医療センターの井上敦介先生より「薬剤業務における医療安全の現状と課題」についてご講演いただきました。薬品配置における取り間違い防止対策、薬品マスターに呼応した処方箋表記への取り組み、小児に対する薬剤過量投与・誤飲事故の防止対策および病院情報システム(HIS)に連携した処方チェックシステムについて大阪南医療センター、京都医療センター、南和歌山医療センターの行っている対策、取り組みの事例とともにご紹介いただきました。薬剤師が薬品棚の配置および処方箋表記の工夫により調剤過誤の減少を図ることや、小児量実投与量をラベル記載し薬剤の過量投与を防止することが結果として医療安全の確保に繋がっていると感じました。日々の業務で起こるプレインシデントを客観的に分析し、その防止策を講じる事が重大なアクシデントを未然に防ぐ最大の対策であると強く感じました。また、今回のご報告のように各施設での防止対策や未然回避事例などを共有する場があればよいと思いました。

特別講演では日本経済大学大学院、経営学研究科教授である赤瀬朋秀先生より「病院薬剤師に必要なファーマシーマネジメント能力-マネジメントに関する正しい知識・技能・役割-」についてご講演いただきました。限られた経営資源の中で、個々の病院に課せられたビジョンや戦略を達成するため、医師や看護師、コメディカル、事務職員など様々な職種と協力が必要であると教えていただきました。また戦略の見える化、マネジメントの見える化を行うことが重要であり、見える化を行うにあたってはバランススコアカードの利用が効果的であるとも教えていただきました。マネジメント能力が必要なのは管理職者だけではなく、個々がセルフマネジメントを行うことが重要であることを学ぶことができました。今回のご講演のマネジメントの考え方やクロス分析から導き出す方策は、経営戦略のみならず、実際の薬剤管理指導業務や病棟業務でも十分に活用できると思いました。講演を聴講された私のような若い薬剤師の先生、まずは、そのマネジメントの手法を「真似時(マネジ)してみんと!!」、自分自身も目標を達成させるために活用したいと考えています。



平成 27 年度 近畿国立病院薬剤師会 教育研修委員会主催
中堅薬剤師研修会報告

国立循環器病研究センター 早川直樹

開催日時 平成 27 年 7 月 11 日 12:30～17:00
開催場所 薬業年金会館 601 号室
参加人数 28 名(研修参加) 18 名(見学参加)
研修テーマ 「後輩薬剤師を育成しよう」

山崎会長(大阪医療センター 薬剤部長)の挨拶があり、第 2 回中堅薬剤師研修会が開催された。形式は、昨年と同様、ワークショップによる参加型研修で行われた。ワークショップに入る前、グループメンバーのコミュニケーションを高めるためのゲーム、頭の活性を高めるための体操を取り入れた楽しいアイス・ブレイクが行われた。

【ワークショップ・成果発表】

研修参加者は、6 名前後の 5 グループに配置され、「後輩薬剤師を育成しよう」のテーマのもと、約 75 分間スモールグループディスカッションを行った。15 分間の休憩後、1 時間をかけ、プロダクトのプレゼンテーションが行われた。各グループでまとめられた発表内容を要約する。

- ① 異なる職能集団が協働して病院事業は運営されており、我々薬剤部もその一員である。病院が、患者満足度の高い医療サービスを提供するために、薬剤部は職能を十分発揮できる組織でなくてはならない。患者へ良質な医療を提供するために、薬剤部は積極的に業務に取り組む必要があるが、そのためには、後輩薬剤師を育成することは非常に重要な事である。
- ② 後輩薬剤師を育成することの重要性は理解しているが、その一方、育成方法について具体的な方策がないことに問題があると認識された。具体的には、後輩薬剤師は理解力、職務に対する態度、コミュニケーション能力等、様々な点で均一でないため、一様な指導方法では育成できない。また、直接、後輩薬剤師を育成する立場にある中堅薬剤師においても、指導能力やコミュニケーション能力、後輩薬剤師との年齢差など、指導者個人に関する問題や、多忙な日常業務をこなさなければならないため、十分な教育が行えないなどの職場環境に関する問題等、さまざまな問題があるとの結論であった。
- ③ 後輩薬剤師を育成する上での問題点を解決するためにはどのような方策があるか。具体的な手段として掲げられたことは、「まずは十分なコミュニケーションをとり、相互の信頼関係を醸成する」「個人で教えるのではなくチューター制度を導入する等、薬剤部組織全体として育成に取り組む」「一定の教育プログラム(マニュアル)を作る。評価基準を作成することで、教育方法をブラッシュアップする」そして、「教えるだけでなく、後輩薬剤師が十分に理解・習得できたかを確認する重要性を認識する」で

あった。

以上のように、ワークショップでは「後輩薬剤師を育成する」というテーマについて、様々な角度から検討がなされた。

【講義】

ワークショップ終了後、早川教育研修委員(国立循環器病研究センター 副薬剤部長)により「後輩薬剤師を育てよう」のテーマのもと、職場教育の一つである「行動科学マネジメント」を用いた人材育成手法について1時間の講義がなされた。

本田副会長(大阪南医療センター 薬剤部長)から総評、終了の挨拶がなされ、中堅薬剤師研修は終了した。



平成 27 年度 近畿国立病院薬剤師会 教育研修委員会主催
中堅薬剤師研修会報告
～「後輩薬剤師を育成しよう」に参加して～

舞鶴医療センター 田中 将晴

平成 27 年 7 月 11 日に薬業年金会館にて開催されました研修会、「後輩薬剤師を育成しよう」に参加しました。

研修会では、「後輩薬剤師を育成しよう」をテーマに、6 名ほどのグループに分かれてそれぞれのグループで、現在後輩薬剤師育成の上での問題点を抽出し改善策についてディスカッションを行いました。その後、各意見を踏まえて全体でのディスカッションを行いました。ディスカッション内容は以下の通りです。調剤業務には調剤内規というマニュアルが存在するが、病棟業務にはマニュアルが整備されていないこと。その結果、教育内容はそれぞれの病棟の先輩薬剤師次第であり、教育レベルがばらばらになってしまうこと。また、知識・技術的な教育とともに、いかにして後輩薬剤師のモチベーションを高く保つためにフォローしていくか。

その後、国立循環器病研究センターの早川直樹先生から、ご自身の経験談と現在新入社員の教育に使われている行動科学マネジメントについての講義を受けました。行動科学マネジメントとは、個人の「性格、やる気」に関係なく「行動」のみに焦点を当てて指導を行う、再現性のある科学的手法であり、これによって価値観の違う世代であっても、誰が教育しても同じように結果が出せるというものです。例えば、「あいさつ」を教えるとする、①入口のドアをしっかりと閉める。②あいさつすべき場所で立ち止まる。③背筋を伸ばす。④挨拶を行う人の方を向いて目を合わせる。⑤大きな声で元気よく「お願いします」と言う。⑥お辞儀をする。と 6 つの行動に分解できます。これら 6 つの行動を教え、マスターさせると、ちゃんとしたあいさつの仕方を知らなかった新採用者も自然にあいさつができるようになる。これが、行動科学マネジメントを用いた教育となっています。当院も一昨年に 2 名、昨年に 4 名と多くの新入者を迎え、半数近くが若手薬剤師という現状で若手育成に問題を抱えていたのですが、今回の研修で他病院、さらに国立病院機構以外の病院勤務経験のある先生とも情報交換できたことはとても有意義な経験となりました。この研修で得た情報を、今後の後輩育成に活かしていきたいと思えます。



「第7回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会」に参加して

南和歌山医療センター 渡辺 雄太

平成27年7月4日（土）に京都テルサにおいて開催された第7回日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会に参加いたしましたのでご報告させていただきます。

今回の学術集会のメインテーマは「臨床栄養におけるエビデンス発信をめざして」ということで静脈栄養・経腸栄養をはじめ、サルコペニアや化学療法中の味覚変化、高齢者の栄養管理などプログラムは多岐に渡り、栄養療法に関わる様々な職種の方々の発表を聴講することが出来ました。シンポジウムの中にもあった化学療法中の味覚障害については私が外科病棟を担当するようになってから患者様の食べる楽しみをどのようにして維持するか度々悩まされる副作用です。がん種こそ違いましたが聴講後普段私が患者様に確認している内容・対策は十分であったか考える機会となりました。

私は外科病棟担当になり、院内NSTにも所属するようになりました。日常業務では化学療法の副作用による食欲不振や手術後なかなか摂食量が上がらない患者様への処方支援や他職種とのカンファレンス、週1回のラウンドでは担当病棟以外の患者様もおり、以前に比べると格段に病棟スタッフと連携することが多くなりました。その中で私はエビデンスに基づく提案が行えているか振り返ってみるとまだまだ勉強不足であり、日々研鑽を怠らず業務に携わっていきたいと考えました。また、今回の学術集会で得た知識を日常業務に生かすことはもちろん自らも情報発信を行っていけるよう業務に取り組んでいきたいと思えます。



初めての転勤を経験して

敦賀医療センター 藤田 晃介

2015年1月の人事異動で、初めての転勤を経験しました。大阪医療センターで働き始めて2年9か月が経ったときでした。



年末年始の大雪で、引っ越した日は一面真っ白な景色。雪の積もる地域での生活は初めてでとても新鮮でしたが、雪道の車の運転には悪戦苦闘しました。周りはもちろん初対面の方ばかりで、調剤室や病棟でのルールも慣れるまでにたくさんミスもしました。

また、こちらの病院で初めに任された仕事は CRC 業務について学び、治験の受け入れ体制を構築するというこれまであまり触れたことのない分野でした。

転勤してしばらくは、あまりの環境の変化に戸惑うばかりでしたが、温かく迎えて下さった皆様のおかげで、今は充実した毎日を送っています。仕事の面でも、HIV 外来の患者面談をする機会があり、大阪で得た知識や経験も自分の身になっていることを実感しました。同じように、当院での CRC に関連する業務も本気で取り組むことで新しい発見に繋がり、薬剤師として成長できるチャンスだと捉えています。

仕事に行き詰り、悩んだときに指導して下さった先生方、環境に馴染めず、疲れた時に愚痴を聞いてくれた友達、そして今この病院でともに働く人たち。色んな人に支えられて今の自分があるということ、一期一会の大切さにも今更ながら気付かされます。

これからも今回経験したような新しい発見と素敵な出会いがあることを期待しています。

「薬剤師の集い」に参加して

舞鶴医療センター 東 達也

平成 27 年 6 月 13・14 日の両日に渡り、南紀白浜にて開催されました「薬剤師の集い」に参加しました。この会の目的は同じ近畿グループでありながら日頃は接することのない薬剤師同士の懇親を深めるためとのことで、本年が初開催となるそうです。しかしベテランの先輩先生方の話では、昔も同様の企画を毎年開催していたことがあるとのこと。

舞鶴からはかなりの道のりにはなるのですが、参加させていただくことにしました。

1 日目はゴルフに参加するために（腕前の方はまだ 3 回目の初心者です）、早朝 5 時には舞鶴を出発しました。やっと到着、少々疲れてはいましたが、すぐにコースを回りました。天候は快晴で、絶好のゴルフ日和でした。しかも自然を楽しめる変化に富んだコースで、気持ちは最高でしたが、成績はビリでした。

さて、夕刻より旅館大広間での会食となりますが、120 名近い薬剤師が一堂に集まったの大宴会となりました。新採用者紹介に始まり、ビンゴ大会、一人しか勝利者のいない過酷なジャンケントーナメント、はたまたちょっと説明できないような怪しい出演者のみなさん等々、催しの内容も盛りだくさんで大いに楽しめました。しかし普段お会いすることのない、さまざまな施設の方とお話できたことが私としては、もっとも貴重な体験となりました。



2日目は南和歌山医療センターを見学させていただきました。昨日の宴会の後でしたから、かなりへばっておられる先生もちらほらお見受けしましたが、見学者は総勢80数名という大人数になっていました。しかし施設の石塚部長以下薬剤部スタッフの先生方の適切な誘導のおかげで、薬剤部とヘリポートも含め病院のかなりの部分を見学できたのです。

施設は大きくきれいで、オーシャンビューのがん病棟も快適な環境で、患者さんには好評とのこと。また私はまだ採用3年目で、現在の施設しか経験がありませんので、院内のどの設備についても興味深く説明を聞くことができました。

貴重な機会をいただき、とても濃厚で有意義な時間を過ごすことができました。

南和歌山医療センターの皆様には紙面をお借りして、感謝の意を表したいと思います。



新採用者紹介

～①氏名 ②施設 ③座右の銘、好きな言葉 ④抱負～

①岩切 悦子 (イワキリ エツコ)

②東近江総合医療センター

③「好きこそものの上手なれ」

④医師や看護師、コメディカルの方々としっかりコミュニケーションをとり、また積極的に副作用やその他必要な情報を提供することで、患者さんからだけでなく医師や看護師、コメディカルの方々、他の薬剤師の先生方からも頼りにされるような薬剤師になりたいと思います。今後ともよろしく申し上げます。

①豊田 悠二 (トヨタ ユウジ)

②東近江総合医療センター

③「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

④今は薬剤部内の業務の事を必死に自分の物にしよう、諸先輩方の知識や考え方を学ぼうとしています。病棟に上がった際は医師の先生をはじめ、看護師の方や他のコメディカルの方と接する機会が増えると思います。薬剤師として自分に何ができるかを常に考えながら、自己研鑽を積んでいきたいと思っています。

①白井 祐也 (シライ ユウヤ)

②国立循環器病研究センター

③「七転八起」

④4月から国立循環器病研究センターでお世話になっている白井祐也です。この数か月先輩方の教えもあり少しずつではありますが仕事を覚えることが出来ました。これからいろんなことがあると思いますがどんなことにたいしても明るく前向きに行動し、薬剤部の一員として少しでも早く貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

①中北 和樹 (ナカギタ カズキ)

②国立循環器病研究センター

③「勝つことよりも負けないことの重要性が大きい」

④薬剤師としてまだ日が浅く右往左往する毎日ですが、今の自分にできることを一つずつ増やしていきながら日々精進していこうと考えています。いろいろとお世話になることが多く出てくるかと思いますが、諸先生方のご指導を受け益々励んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

①安延 恵 (ヤスノベ メグミ)

②国立循環器病研究センター

③「雨垂れ石を穿つ」

④『患者様に寄り添える薬剤師になりたい』と考えています。そのために、まず基本業務に慣れ、先生方から教えていただいたことを、しっかりとできるようにしていきたいと思っています。また自ら学んでいく姿勢も忘れず、積極的に行動できるように努めていきます。ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、ご指導よろしく願いいたします。

①西野 料司 (ニシノ リョウジ)

②国立循環器病研究センター

③「できることからやっていく」

④今年の5月から国立循環器病研究センターで勤務することとなりました。

薬剤師の免許を取得してから、初めて薬剤師として勤務します。7年間のブランクがあり不安もありますが、先輩たちに学び早く一人前の薬剤師になりたいと思います。また、4月勤務の同僚に早く追いつき切磋琢磨できるよう日々精進していきたいです。

①田中 裕人 (タナカ ヒロト)

②国立循環器病研究センター

③「いっちょやったるか」

④4月から国立循環器病研究センターで勤務しています田中裕人です。前職は神戸市立医療センター中央市民病院でレジデントとして一年間勤務していました。そこで学んだことを活かしつつ、現在の職場で循環器疾患についてさらに深く学び、薬剤師として患者様への適切な薬物治療に貢献できるよう努力していきます。よろしく願いいたします。

①萬浪 綾乃 (マンナミ アヤノ)

②大阪医療センター

③「一日一善」

④本年度より薬剤部に配属されました萬浪綾乃と申します。学生時代はバレーボール部に所属しておりました。趣味はスキーで、幼少の頃から野沢温泉や志賀高原スキー場へ毎年足を運んでおります。

仕事では他の先生方に大変ご迷惑をおかけしておりますが、一日でも早く仕事を覚えて皆様に貢献できるように頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しく願い致します。

①柴野 理依子(シバノ リエコ)

②大阪医療センター

③「一石二鳥」

④4月より大阪医療センターに配属されました。趣味はダンスで、学生時代はダンスサークルに入っておりました。また楽しいことが何でも大好きなので、社会人になってもうまくリフレッシュしながら、仕事・プライベート共に充実させたいと思います。日々の業務は学ぶことが多く、1日でも早く、薬剤部の戦力となれるよう、精一杯精進してまいりたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

①坂本 麻衣(サカモト マイ)

②大阪医療センター

③「どんな時でも感謝の気持ちを忘れない」

④調剤薬局、中規模病院を経て、この度就職させて頂きました。人数が多く、沢山の皆様と一緒に働くことができ嬉しく思っています。患者さんや他の医療従事者のお役に立てるように、さらに知識を深めていきたいと思っています。

①齊藤 祐介(サイトウ ユウスケ)

②奈良医療センター

③「初心忘るべからず」

④4月より奈良医療センターにて勤務させていただいております齊藤祐介と申します。現在は結核を主に扱う病棟を担当させていただき、日々患者様への服薬指導等を行っています。業務には慣れましたがまだまだ学ぶことの多い毎日です。最近はスキューバダイビングのライセンスを狙っており、夏期休暇で取得できたらと考えております。薬剤師としても社会人としても未熟な私ですが、よろしくお願いいたします。

①前川 由季菜(マエカワ ユキナ)

②神戸医療センター

③「持ちつ持たれつ」

④社会人になって4ヶ月がたちましたが、まだまだわからないことばかりで、先輩方の温かいご指導のもと毎日勉強させていただいています。病棟業務では、初回面談から退院指導まで患者様を継続してみたいけるように指導を受けています。少しでも早く薬剤部の一員として患者様の治療に貢献できるように、今後さらに頑張っていきたいと思っています。

①今西 貴子 (イマニシ タカコ)

②神戸医療センター

③「石の上にも三年」

④奈良県から出てきて働き出して早四ヶ月、病棟業務にも少しずつ携わることができました。

日々の調剤業務も処方内容を考えながら行うよう自己を磨いて、この先の自身にあった専門性を模索していきたいと思います。

今年は臨床の基礎的な知識や病院の流れやルールを理解して動けるようになることが目標です。

①松尾 世為子(マツオ セイコ)

②南京都病院

③「和して同ぜず」

④入職して一カ月が経ちましたが基本的な業務でまだまだ手間取ることが多く、諸先生方にご迷惑をおかけしないよう手際よく正確にこなせるようになることが今の目標です。皆様から信頼していただける病院薬剤師になれるよう、これから沢山の経験を積みながら職場に貢献できる事を見つけていきたいと思っております。

①木本 大樹 (キモト ダイキ)

②大阪南医療センター

③「一期一会」

④7月から病棟に行くようになりました。今までとは違い、医師や看護師、患者さんの近くで働くことになるのでコミュニケーション能力がより一層必要だと感じています。今後は、患者さんや医師、看護師からも信頼されるような薬剤師になれるよう目指して頑張りますのでよろしくお願いします。

①大倉久敬 (オオクラ ヒサタカ)

②兵庫中央病院

③「感謝と謙虚」

④私は専門性を高めつつ、広い視野を持った薬剤師になりたいと考え、医療にかかわるすべての方から信頼される薬剤師として成長していきたいと考えております。そのためにも調剤や注射薬の調製、医薬品情報の管理、病棟での業務などの様々なことを経験することで知識・技能・態度を学び、日々、自己研鑽に励んでいきたいです。

①山本 幸枝(ヤマモト サチエ)

②近畿中央胸部疾患センター

③「愚公移山」

④2015年6月に入職致しました。これまでは民間病院で勤務しておりました。国立病院機構では、日々新しい分野の知識に触れることができ、これまで以上に薬剤師として働くことの“やりがい”を感じております。慣れないことも多くご迷惑をおかけすることもあると思いますが、これまでの経験を活かして明るく、全力で業務に取り組んでいきたいと思っております。

①永井 詩織(ナガイ シオリ)

②近畿中央胸部疾患センター

③「為せば成る」

④4月から近畿中央胸部疾患センターでお世話になっています新人薬剤師の永井詩織です。仕事はまだまだうまくいかないことが多くありますが、一生懸命勉強して一つずつ出来る事を増やしていきたいと思っています。先輩方のように患者さんや医療スタッフの役に立てる一人前の薬剤師なれるように頑張ります。

①根上 直樹(ネガミ ナオキ)

②和歌山病院

③「まずやってみる」

④趣味は野球観戦です。休日はテレビで野球観戦をして過ごすことが多いです。今年は新しいスポーツを始めてみたいと思っています。初社会人、初一人暮らしなど初めてのことが多く不安もありますが、何事にも挑戦する気持ちで取り組んでいきます。まだまだ未熟者ですがどうかよろしく願いいたします。

①松下 一樹(マツシタ カズキ)

②敦賀医療センター

③「ありがとう」

④北海道出身の松下一樹です。道産子です。敦賀は雪が降ると聞いております。ですが、私には北海道で培った雪かきテクニックがあるので、雪かきは任せて下さい!!!!(笑)。薬剤師としてまだまだ一人前にはほど遠いですが、諸先輩方からのご指導をいただきながら、薬剤師として、また人として成長していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

①熊谷 康平(クマガイ コウヘイ)

②京都医療センター

③「本物は続く。続けば本物になる。」

④未熟者ですが、薬剤師として医療に携わる責任を感じながら成長し、患者さんの薬物治療に貢献したいです。

- ①杉本 有香(スギモト ユカ)
- ②京都医療センター
- ③「反省するが後悔しない」
- ④患者さんへよりよい医療を提供するために、薬剤師としての視点・知識・技能を身につけていきたいと思います。

- ①田淵 寿美(タブチ ヒサミ)
- ②京都医療センター
- ③「いつも笑顔で」
- ④まだまだ未熟ですが、何事にも全力で、自分から積極的に取り組んでいきたいと思っています。先輩方の素敵な部分をどんどん吸収して、自分もそんな薬剤師になるために努力していきたいと思っています。よろしくお願いします。

- ①岩淵 恵理(イワブチ エリ)
- ②南和歌山医療センター
- ③「猪突猛進」
- ④南和歌山医療センターの薬剤師として勤務するようになり、間もなく半年が経とうとしています。病棟業務を行うことになり、様々な患者様と向き合う中で、自身の知識の無さや、人と接する難しさを痛感しています。日々勉強し、1日も早く患者様、他職種の方に信頼される確かな知識を持った薬剤師になるべく頑張ります！！

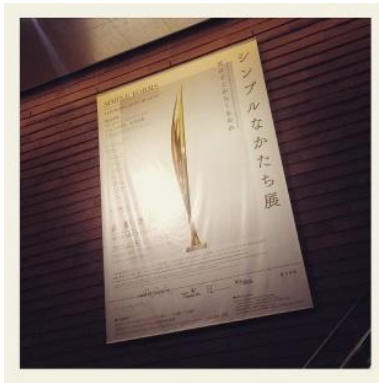
- ①辻田 司(ツジタ ツカサ)
- ②南和歌山医療センター
- ③「成せばなる」
- ④私が目指す薬剤師像は、他の職種から信頼され、個々の患者さんに合った薬物治療を積極的に提案できる薬剤師です。薬剤師になってまだ日も浅く、分からない事も多く悩む事もありますが、そういった事を、確実に理解し知識を身に付けて臨床の現場で活かしていきたいと思っています。

- ①楠本 可奈(クスモト カナ)
- ②姫路医療センター
- ③「人生に無駄な物事はない」
- ④薬剤師として働かせていただいて3ヶ月たちましたが、薬についてわからないことや覚えることが沢山あります。チーム医療へ参加できる人材になれるように、薬一つ一つの特徴を捉え、また薬物治療の理解を深めることで患者様へより安全でよい医療を提供できるように精進したいです。

趣味のページ ～自由に感じる時間～

京都医療センター 竹之下 祥愛

はじめまして。京都医療センターの竹之下祥愛です。今回は私の大好きな美術館についてお話しさせていただきます。私は物心ついた頃から両親の影響で美術館やミュージカル、コンサートなどに行く機会が多く、自分の五感で直に本物に触れ、湧いてくる感覚に魅せられて、仕事を始めてからも時間をみつけては足を運んでいます。



6月には、横浜で行われた日本緩和医療学会の帰りに六本木ヒルズ森タワーの53階にある森美術館へ「シンプルなかたち展～美はどこからくるのか～」を観に行ってきました。絵画や写真、彫刻、陶器、道具などの物体作品から、映像や影などの空間作品まで、作者たちが”美しい”と感じる、ありとあらゆるものが集められた展覧会です。

“人が自然をみて美しいと思う、人が物をみて美しいと思う、人が人をみて美しいと思う、その理由はどこにあるのか、何がみる人の感性を刺激するのか。”

作品ひとつひとつの中に、上記の問いに対するヒントがたくさん詰まっていました。

そして、今回の展覧会で私が最終的に感じたのは、“美しい曲線やフォルムは人を惹きつけるが、それがシンプルであればあるほど人をより興奮させる”ということでした。

皆さんは普段、何をみて美しいと感じますか？

美術館に行くとは私は無条件にわくわくします。美術に関する専門的な知識もなければ、有名な画家ですらほとんど知りません。でも一度見て気に入った作品のことはしばらく頭から離れません。そして、作品を見て感じたことや考えたことが自分の生活の中で何かのヒントになることが多くあります。美術館にあまり行ったことのない人や興味のない人はたくさんいると思いますが、あまり先入観を持たずに気軽に行ってほしいと思います。知らない世界を覗けるような、新しい概念が与えられるような、そんな感覚を是非味わってみてほしいです。このページが皆さんの美術館に足を運ぶきっかけになれば幸いです。ありがとうございました。

次回は兵庫青野原病院の仲野宏紀先生にお願いしています。お楽しみに。

編集後記

♪ 梅雨が明けたとおもったらとてつもない猛暑が続きますが、皆様は体調いかがでしょうか？今月もたくさんの記事を投稿していただきご協力ありがとうございます。

♪ 今夏の甲子園では早稲田実業の清宮幸太郎、九州学院の村上宗隆といった 1 年生で中軸を任されている選手たちが出場しており、若さあふれる試合をみて元気をもらいました！甲子園の球児たちに負けないように頑張っていきたいと思います。

♪ 先日、猛暑ではありますが、山の中を走るトレイルランに参加してきました。朝 7 時にスタートしましたがすでに気温 30 度を近くまで上昇し、2 時間後にはバテバテになりましたが、とって汗をかいて楽しかったです！一緒に練習していただける方がいましたら是非お声をおかけください。

♪ さて 8 月号は今までと少し趣向を変えて、新人紹介にて各施設の新任の先生方に座右の銘を書いていただきました。各先生方の個性が出ており大変盛り沢山の面白い内容となっております。ぜひ最後までお楽しみください！！

(M.B)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌 第四十三号 平成 27 年 8 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂 2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 薬剤部内)

発行人 会長 山崎 邦夫 (大阪医療)

編集 広報担当理事 宮部 貴識 (大阪医療)

広報委員 本田 富得 (大阪南医療) 川端 一功 (東近江総合医療)

朴井 三矢 (大阪医療) 中西 彩子 (奈良医療)

小西 大輔 (大阪医療) 岩槻 瑠美 (南和歌山医療)

奥田 直之 (大阪医療) 田中 絵理 (宇多野)